

ぜんしゅうきょう 全宗協



発行：全日本宗教学具協同組合 〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-16-7 第二小林ビル2階 TEL:03-6206-0413 FAX:03-6206-0414

令和5年度全国研修会を京都で開催！

「全国中小企業団体中央会」の補助金事業による全宗協全国研修会は10月5日(木)、6日(金)の2日間、TKP京都四条駅前カンファレンスセンターでリアル参加のみにて行われました。「私たちは業界の『よき祖先』になれるか、変容する市場の商機を探る」をテーマに講演と鼎談、グループワークで未来を見据えて今を考える長期思考を学び、新たな視点が開けた有意義な研修となりました。参加者42名。

【総評】

変容する市場に商機を探る

池田 典明 理事長

皆さま長時間にわたり、本当にお疲れさまでした。墓田先生には2日間の講義内容を深夜まで作業して、的確にポイントを分かりやすく総括していただき、改めて内容の濃い研修であったこと、感謝申し上げます。

今年はコロナが5類に移行となり、京都会場でのリアル開催となりました。講演、鼎談、グループワークも行われ、また、先ほどは業界と繋がり深い漆芸の世界にも触れることができ、バランスの取れた研修だったのではないのでしょうか。

今研修では「若者の言葉から未来を探る」「継承」「最適化」などの言葉が出てきました。我々は宗教用具という伝統工芸産業に携わる者として、次の若い世代へ、伝統技術を継承することのみならず、歴史(ストーリー)・物語(ストーリー)・意志(ウイール)

をブランドとして次世代に伝承していく事が役目ではないでしょうか。従来の技術の継承だけではなく、時代に合わせた商品開発を行い日本から海外に向け発信する。しかしそこでは、世界の多様な生活文化を探るにより可能性が広がることを学びました。

全宗協に入っていれば、商売で競い合っているにも実際に会ってコミュニケーションを取り、研修で磨き合うことにより、懇親が深まるのではないのでしょうか。ぜひこの研修会のいいところを組合員の皆さまにもっと広めていただきたいと思います。

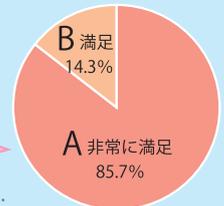
この研修会が全宗協組合員の人間力を醸成していく事のみならず、宗教用具業界に新しい息吹を吹き込んでいく事を切に期待いたします。皆さま2日間、ありがとうございました。

アンケートから

2日間の参加者のアンケートより「研修内容」についての結果と、講師ごとの気になった言葉を抜粋してお伝えいたします。

研修会の満足度評価

A 非常に満足	85.7%
B 満足	14.3%
C 普通	以下0%
D あまり満足できない	
E 非常に満足できない	



ひきた氏 基調講演

レッテルを貼らない / 凡夫 / 人生は一本道ではない地図 / 伝わる言葉 / 小確幸 / 伝わる伝道 9 箇条の完成を期待 /

松本氏 講演

未来に多くの選択肢を残す / 祖先 / 修養 / 誰もが誰をも吊ってよい / あえて誤読する / 宗教用具の名称変更 / 産業僧 / 先祖供養の輸出 /

鼎談

仏壇屋・宗教用具という言葉を手放す / 未来を見据えたもの作り / 長期思考 / パーソナル / 最適化 / 多様化 / 世間の変化を受入れる /

グループワーク

様々な業種、世代の意見を聞いた / いろいろな意見が楽しかった / 死を見つめて今を生きる / 死生学 / 伝統を守り変化する /

下出氏 講演

相手のニーズに合わせる / 工法の異なる蒔絵を見られた / 日本の漆文化は 9000 年の歴史 / 伝統芸術の歴史と継承 / 世界を知る /

ひきた氏 総括

最適化 / 何を捨て、何を残すか / 長期化戦略と最適化 / 分かり易くまとめて頂き理解が深まる / 不要なものを捨て余白を活かす /

基調講演

若者の言葉から未来を探る

（株）スマイルワーズ 代表取締役

大阪芸術大学客員教授

ひきた よしあき氏

イギリスのBBCによる報道がネットで拡散され広く伝わったことで、ジャニーズ問題が明るみになり、そこにマスコミの報道姿勢、世代交代、テレビ局とネットの価値観の乖離等、多くの問題が浮き彫りとなりました。今真剣に変わらざるを考えないと、手遅れになってしまいます。今日は、若い世代の感覚や言葉の変化を、西本願寺の伝わる伝道の取り組みから探っていきたいと思えます。

そのジャニーズのアイドル達をずっと応援してきたのは今の大学生の親世代、二十歳の頃にルーズソックスが流行った平成世代です。「昭和」の感覚が全くなく、小さくても幸せであればいいと願っていて、そんな親に育てられた学生の幸せは、家族で月に一度行く焼肉屋とカラオケだといいます。昔と考え方が大きく変わっていて、いい会社に入ってもいつまで続くかわからないから、今を大切に生きて生きようという人が多くなりました。村上春樹氏は、高度経済成長を知らない多くの日本人の理想を「小確幸（小さくても確かな幸せ）」と表現しています。

ダイナミズムは失われているが、ほのぼのとしたいい家族が増えていて、ここにどう応えていくか、そこに一つのヒントがあるのでないでしょうか。



皆さんは若者がレポートを書くのは苦手と

思っているかもしれませんが、ネット上の情報をコピペすればいくらでも合格点が取れますし、話題の生成AIチャットGPTは、学生の8割がすでに使っています。以前、西本願寺で「南無阿彌陀仏」をどう説明するか聞いたことがあります。それをチャットGPTで調べてみると、小・中・高校生それぞれにわかりやすい単語で説明が出てきます。このチャットGPT以外の解釈が求められているのです。ところが、雑談や会話を実際にするとなるとまるつきり話せなくて、言葉の転換期で格闘している若者がたくさんいます。

SNSの発達で言葉が汚くなった一方で、松下幸之助や稲盛和夫のようなまじめな人生読本が若い世代に好まれたり、親鸞聖人の言葉「凡夫」を取り上げた私の授業が学

生にすぐ響いて好評だったという経験もあります。「凡夫」とは欲に憑かれた愚かな状況で、皆が自らを「凡夫」と認めて話をすれば、もつとまるやかな世の中になるのではないでしょうか。この業界の皆さんなら、善い言葉をたくさん知っているはず。言葉の描き方を変えることで若者にヒットする新しい切り口があるのだと思います。

私は3年前から西本願寺の「伝わる伝道プロジェクト」に関わっていますが、親鸞の言葉をどうやって今に活かしていくか、法話やインスタグラムで僧侶と共に取り組んできました。2018年に現・門主の大谷光淳師が示した「私たちのちかい」は、時代に合わせて臨機応変に変わらなないと伝わらないという強い信念に基づいて発せられました。簡略な表現は「違約しすぎ」などの批判を当時受けましたが、伝統を守りながらも伝わる言葉を今も模索し続けています。インターネットの世界では「皆さん」と呼びかけず、パソコンの前に座っている「あなた」へ向けて語らなければ響きません。法話を行う僧侶も同じで、個々の悩みについて因数分解ができていくのが重要で、アドラー心理学のように、まず悩みに共鳴する（そうだよね、よくわかる）、次に受容（似たような経験がある、同じ気持ちになった）、そして提案（こうしたらどうかな、最後に励まし（頑張ろうよ）とアドバイスをします。伝わる伝道とは、相手を知り、相手の不安を理解し、仏教の知恵で寄り添うこと。「伝わる伝道プロジェクト」ではこの伝わる伝道を実践するための9箇条を「正しく、

わかりやすく、ありがたく」を柱に作っていて、これを参考に仏壇のありがたさをどういう言葉で伝えていけばいいか、真剣に考えていきたいと思います。

世代交代はここでも起きていますし、世の中は変わろうとしています。仏教、人を葬る儀式、死者を敬う心、そういうものを変わらなくするためには、我々が変わり続けなければなりません。ニーチェの言葉「永劫回帰」のように、何度生まれ変わっても同じ選択ができる今を生きる。つまり、今やっていることをずっと続けても大丈夫か考える、それが変わる契機となります。そしてレットルを貼らない。仏壇は売れないと言ってしまうと、売れない事実ばかりを脳は探してしまいます。今の若者には可能性があるので、手を合わす作業は取り返すことができるレットルを貼り変えることで、業界や個人は変わっていくと思えます。

最後に、剣道や華道など一本の道を歩むことが私たち日本の人生観で、隣の人と比べて、ここで休むと遅れると行き詰ってしまいますが、哲学者ドゥルーズは「人生は地図」、山を登ろうが、川べりを歩こうが自由、この地図の中の宝の山を見つけたらいいと言っています。

私が熱でうなされ死を身近に感じた時、握りしめた珠数がその不安を取り去って気持ちをラクにしてくれたように、私たちの宗教用具が不安をかき消すためのツールとして活用できることを、どのようにわかりやすく若者に伝えていけばいいか、真剣に考えることで必ず活路は開けます。

講演

私たちは「よき祖先」になれるか

変容する価値観・市場の変化に商機を探る

光明寺僧侶
武蔵野大学客員教授
松本 紹圭氏

今回は、「マインドフルネスの流れを利用し先祖供養を輸出できないだろうか」というところに向けて話を進めていきたいと思えます。光明寺の僧侶になりもがきながら道を切り開いてきた20年を振り返ってみると私は『コンテキストデザイン』をやったのだらうと思います。人それぞれの物語が生まれるようなきつかけづくりの取り組みを行い、それに触れた人がいろんな角度から話題にしたくなる流れを作っていくこと。このコンテキスト（文脈）には強弱があつて、「お経にはこう書いてあります」と言う和有無を言わない権威の強い文脈になり会話が続きませんが、「お経にはこうあるが、私はこのように読んでみたい」と言えば対話が始まります。重要なのは「誤読を恐れなくて」。宗教界は昔からの時間の厚みがある世界だからこそあえて誤読を促し、そこに耳を傾けたり受け止める余地があることを伝えられたらと思います。

私は4年前の研修会で「日本のお寺は2階建て論」という講義をしました。1階は年配の方にとつてお墓参りや法事でお世話になる場所、いわゆる先祖教で、死者中心の世界。2階は若い世代が、マインドフルネスや坐禅会でいかにこの世を生きるかを学ぶ仏道の世界。日本のお寺は、そうした先祖教と仏道の2階建て構造だとお話ししました。

経済面でいうと、1階の先祖教は檀家制度の縮小とともにお布施経済が下がっていて、2階の仏道は少し上がっているが細いお賽銭経済、2階を頑張つてもお寺を維持できるほどの太さは1階にないのが難問です。お寺は供養の部分が強くて仏道とは交わらないことがずつと悩みでもありました。

『グッド・アンセスター―わたしたちは「よき祖先」になれるか』という本と出合い翻訳しました。著者のローマンさんは、「未来に生まれてくる人たちにとつての祖先―私たちがどのように振り返られるのだろうか」という問いかけをします。そういう考え方があるのかと、大きな視点を与えられました。人は目先の報酬に反応しマシムロがあれば食べてしまう「短期思考のマシムロ脳」と、森を思い描きドリググを植える「長期思考のドリググ脳」とが一人一人の中に混在します。文明や社会がそのようにして発展してきたわけで、この大加速時代を生きている私たちが、マシムロ脳に引つ張られがちな現代だからこそドリググ脳ををちゃんとやらないと、この大きな流れに歯止めをかけられないのではないかと主張しています。

「いかにしてよりよき祖先になれるか」、私はたくさんの方に問いかけてきました。台湾のデジタル担当大臣のオードリー・タンさんの答えは「未来の世代に、より多くの選択

肢を残すこと」。本当にベストな選択かわからない中で生きているからこそ、選択肢を減らさないことが重要なのだと思います。

この回答をヒントに「仏教の2階建て」を見ていくと、1階の先祖教を祖先教と微妙な転換をすることで、また違った世界が開けます。「先祖」は両親、祖父母のように血縁のイメージですが、「祖先」というと人類の祖先のように幅が広がります。お寺では昔から血のつながりのない宗祖の法要、浄土真宗の報恩講、日蓮宗の御会式、浄土宗の御忌などを盛大に行ってきましたが、これは住職や僧侶の「グッド・アンセスター」を弔う文化です。一般でも今までの「家」という単位ではカバーしきれない供養、弔いは増えていて、誰もが誰をも弔ういい文化があつていいのではないのでしょうか。

また、2階のお賽銭経済を太くするため従来の個人の檀家だけでなく、法人檀家の可能性を探っていて、会社を訪問して般若心経をあげる、坐禅を指導する、人生相談に乗るなど提供したらどうでしょうか。私は「仏道から修養へ」という新しい文脈を考えて、この修養を「修行」と「養生」に分け、まず自分自身の身を整える養生（健康、考え方、人間関係等）において力を蓄えたい方、それが会社で働くことであつて、このサイクルを回していく形が企業におけるウェルビーイングとなります。

「お寺の朝掃除の会・テンプルモーニング」を行い宗教の枠をずらす試みを続けてきました。この流れで、産業界から産業僧を発想して、僧侶とオンラインで対話することでストレス軽減やリーダーシップ啓発を行い、AIの音声感情解析ツールで感情コンディショニングを知る取り組みを始めています。この産業僧が認知されれば、地方でお寺をやりながら広く活動できる可能性があります。

最後に、1階と2階、先祖教と修養のコンテキストを合体させて何かできないか。私は象徴的に「お仏壇」で表現していますが、毎朝の仏壇参りは、いわば死者を媒介とした死の瞑想的な日々のマインドフルネス実践です。故人に手を合わせるだけでなく、我々が『よき祖先』にどうしたらなるのか、未来に何が残せるのか、ならば今日いかに生きるべきか問いかけます。マインドフルネスがこれほど世界に広がっている現在、この仏壇参りから先祖供養を輸出できるのではないかと、ダボス会議で検証してみました。心を落ち着けてから会議に臨むと生産性が上がり、いい議論ができますよと、ダボス会議の2023年のテーマ「分断された世界における協力の姿」にも合わせた形で、僧侶は「過去と未来の人の橋渡しをするアンセストリスト」で、長期思考を啓蒙する存在と紹介して、3日間祖先を思うセッションを行いました。百数十人の参加者があつて評判もよく、先祖供養を輸出する形の一つはできたのだと思います。

今後もこのような活動を担っていきたくし、宗教用具や様式の形を作っていってほしい皆さんと一緒に先祖供養を広く伝え、盛り上がっていきたく思っております。

鼎談

未来の子孫たちへ

「よりよい社会を手渡すには」



墓田 吉昭氏

松本 紹圭氏

吉田 光宏氏

全宗協副理事長

吉田 墓田吉昭先生と松本紹圭先生、そして私が質問をしております。「お仏壇の商機」が時代の変化とともに大きく変わってきております。広告業界は商機が変わるということはそんなに無いように思いますが。

墓田 私が担当した広告で「100年後からの手紙」という、未来の少女から問いかける食品メーカーのCMがありました。「未来を見据えて現在何をすべきかを考える」バックキャストという手法です。SDGsの観点などから持続可能な世界を考えた場合に、電気自動車は未来を考えていなかったのではないかといわれるように、企業の取り組み姿勢がシビアに問われています。

吉田 お寺様は時代によってそれほど変化はないと思いますが、どうでしょう。

松本 仏教界が「長期思考」でありたいと思いますが、あるかという点、痕跡はあるかもしれないが、今は失ってしまったという認識を持つて捉えた方がいいと思います。

墓田 ダボス会議では、キリスト教やイスラム教などの一神教の方も多いと思いますが、「先祖供養」についてのどの様に理解されていますか。

松本 西欧や中東、アフリカの人が多く、富裕層や王家には先祖あつての自分という

考え方があります。また、これから産まれてくる人の人権を守つていこうという流れもあつて、人権概念が拡張しています。ダボスでストレスフルな生活を送っている人に、朝、ご先祖様から、遙か未来の子孫に思いを馳せてもらう。そして、よりよい世界を子孫に引き継ぐにはと思ひ描いてもらう非常にいい機会になつたと思います。

墓田 私が長年スピーチを書かせていただいた社長さんは、毎朝お仏壇の前で「3代目、4代目ならどう考えただろう。多角経営で失敗した6代目に自分がなっていないか」と問ひかけながら1時間くらい過すこと聞きました。創業100年の企業は100年後を見据えられますが、起業3年の会社は3年後しか見通せないと言われます。

吉田 我々の宗教用具業界は、比較的長い歴史を持っていますので、長期思考ができると思われませんが、過去を振り返るとともに、文脈を新たにして未来を思ひ描くことが大事になるでしょうね。

松本 ダボス会議は出張先だったので「三つ折り本尊」「阿弥陀様」「おりん」と掃除用の小さい箸を使いました。そういった先祖を祈る場が成立するならば、逆に次はどんな用具を使うかという発想にもなります。

グループワーク

次世代に手渡す業界の財産

「短期思考」から「長期思考」へ

ひきた よしあき氏

1 グループ

アメリカの大学では「死生学」を学ぶと言います。「自分が死んだときに友人にどんな弔辞を読まれたいか」また、「墓碑銘に刻むとしたらどんな言葉がいか」。自分が死んだときから逆算して人生をどう生きるか考えるということ。皆さんに考えてほしいのは、自分が亡くなる時、勤めている会社、経営している会社が将来どんな会社になつてほしいかということです。

- ① 正直な商売を続ける、伝統文化の継承、経営事業を守る
- ② 仏壇・人形の販売、ミッションに関わる仕事、お寺に関わる仕事
- ③ お酒の付き合い、非合理的作業、感謝されないこと、ただの物売り
- ④ 海外への展開、飲食業、多くのお客様に集まつていただける店舗
- ⑤ 続けること、ありがとうの気持ち

2 グループ

- ① 継承してほしい心得
- ② 継承してほしい事業内容
- ③ 逆に無くしてほしいものは何か
- ④ 新しく進出したい分野
- ⑤ 残すべき言葉

思いつくまま考えてください。

個人作業 (15分)

グループ内発表 (15分)

全体発表 (10分)

講評 (5分) で進めていきます。

30分経過

では、いくつかのグループに発表していただきます。

3 グループ

- ① ただの物売りではなく心の豊かさ、損得より善意を尽す、世の中にとつて存在意義を作る
- ② 宗教・宗派に捉われない商品作り
- ③ 訪問営業
- ④ 自由にできる分野を作りたい
- ⑤ 伝統に縛られないものを大切に作る



吉田 自分なりということがすごく増えていると思います。京都のオムロンという会社の創業者が50年程前に言った SINIC (サイニック) 理論という未来予想がことごとく当たっていたと再び注目されていますが、過去には「工業化社会」があり、機械に人間が合わせていた「機械化社会」「自動化社会」「情報化社会」と時代が進み、今は多様性。

松本 象徴的なのがチャットGPT、機械が人間に合わせる。多様性を含めて「最適化社会」に入ります。それが2025年に「自立社会」、2033年頃には生きる意味が問われる「自然社会」へ突入します。

吉田 お仏壇の意味も少し変わってきて、家のお仏壇から個人のパーソナルな供養の仕方になってきています。

梶田 私の会社の神棚には、親鸞さんの旅姿の像の横にスヌーピーの置物があります。「罰が当たる」といわれそうですが、仏教の延長線上にない人にとっては、それぞれパーソナライズされた心地良いものを求める時代。

吉田 未来に向けた、心地よい祈りの空間が求められる時代ですね。テキストを変えていくことだと思います。



お互いのご著書『雑談が上手い人が話す前にやっていること』ひきたよしあき著 (アスコム出版) :『グッド・アンセスター』松本紹圭翻訳 (あすなる書房)

「こころ」で、ご質問ある方、どなたかいらっしゃいますか。

高山 今は終末医療の場で「先祖の存在が感じられる空間」が求められるようになりました。そこで松本さん、そのような空間をつくるアイデアがあれば教えてください。

松本 難しいですね。あえて言わせていただくと、「宗教用具」という名前をコンテキストチェンジする。「仏壇」をどう読み替えるか。その背後にあるものを皆で考えることがコンテキストを変えていくことだと思います。

梶田 代々続くお店を継ぐことで、どうしても「方言化」が起きる。若い世代がコーチングや心理学を学ぶことで、新たな視点から風穴を開けていく。

吉田 松本さんのダボス会議の最初のページに掲げられたゴーギャンの絵『我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか』というタイトルの絵がありました。この研修を機に「我々は何者か。今どこにいるのか。我々は子孫に向けてどこへ行くのか」立ち返って考える、そのような機会をいただき、ありがとうございました。

■ Group Work ■

4 グループ

- ① 社員と会社の透明性を持った心でやっていきたい、利他精神を持つ、人を幸せにしていきたい
- ② 線香の意義・価値を伝えたい
- ③ 出張、環境負荷の高さ、お気に入り社員一番という雰囲気を変えてほしい
- ④ ウェルビーイングに関わることで、仏事に興味を持つてもらおう雰囲気伝える、文化の啓蒙
- ⑤ ご縁に感謝、仲間を大切にしたい



6 グループ

- ① 人の心に寄り添う事業、人の心に携わっている部分、職人を大切に、伝統と創作的な部分、誇りとブランド、心のつながり、火血を大切にしたい
- ② コアビジネス(山口久乗さんのおりんと音の追求など)、新しいお仏壇や古いお仏壇も大切にリメイクも行う
- ③ 古い習慣、競争はしたくない、休日出勤はやめましょう、年配の人の言葉は継承したくない
- ④ 今までの事業に捉われず新しいことにチャレンジする、おりんなどの仏具を医療関係に活かしたい、業界以外のことも取り組んでいく
- ⑤ 感謝すること(ありがたい・おかげさま・自分は一人ではない)、その時代を生きる人の考え方を仕事に反映させていく



- 5 グループ**
- ① 伝統を守る、暮らしを大切に、心をこめる
- ② 既存の物を作り続けていく、伝統を活かしたものを作り続けていく
- ③ 宗教用具という言葉の束縛、あまり売れていない商品
- ④ 宗教以外の物を作っていく、それぞれの会社の特徴に合ったものを作っていく、現代の生活に合わせたものを作っていく
- ⑤ 楽しんで仕事をする、笑顔を作る、マインドフルネス的なこと、社員の意見を取り入れる

今日の発表は皆さん素晴らしいです。あのステイブジョブスも「未来のために死生学を考える」といい、彼の生き方に反映されていました。自分の死から逆算してどう人生を生きたいか、是非、会社の皆さんにこの考え方をワークショップで伝えてください。

講演

日本の伝統工芸の魅力を どう世界に発信するか

～ 職人の仕事を次世代に繋ぐ ～

京都産業大学名誉教授
下出 蒔絵司所代表

下出 祐太郎氏

参加者の方には全国各地で「伝統工芸士」として仕事に携わっている方もいらっしゃるか

と思います。伝統工芸には法律で百年以上続く手仕事であることや、伝統的な原材料を使用すること、一定地域で生産される工芸であることなど、5項目の縛りがあります。漆器がプラスチックに代わり、蒔絵技術がシルクスクリーンに代わる時代ではあります。この制約を逆手にとり、より高い技術と価値ある商品として事業展開できないかということも含め、伝統工芸の中から私の専門である漆芸に特化してお話しさせていただきます。

漆は9千年前すでに副葬品として使用されていたものが、北海道で発掘されています。死者に漆を含ませた布が掛けられていたことから、繊維を編み、漆を使用する高度な技術を持つ社会集落が営まれていたことが想像されます。縄文時代中期には漆の椀、皿の器等、幅広い用途で使われ、日本において漆は古代から長い時代を経てきた材料です。日本独自の蒔絵で使われる金粉は大きく分けて形状で5種類、さらにそれぞれを15段階の粗さで使い分けます。

漆工芸品として最古のものは、皆様の業界と深いつながりのある法隆寺の「玉虫厨子」が飛鳥時代の国宝としてあります。漆は東アジアにしかありません。仏教の伝来とともに

に大きく発達していきます。奈良時代の興福寺にある阿修羅像は、塑土で型を作り麻布を漆で塗り固めた脱活乾漆造(だっかつかんしつくり)という製法で作られたものです。そして平安時代に中尊寺金色堂では螺鈿の細工で見事に仕上げられています。京都では、鴨川と御所車をモチーフにした車輪と波の文様が蒔絵の手箱などが作られました。また、戦国時代にはキリスト教の伝来によりキリスト経用具が蒔絵で作られ、その後東インド会社の交易で、ヨーロッパに蒔絵漆器が紹介されていきます。イェズ会の紋章の書見台は有名ですが、そのような時代の変遷を経て、現代につながっています。

漆は10年経った成木から樹皮に傷をつけて採取するのですが、1本の木から150〜250gの量しか採れない手間と時間がかかる素材です。蒔絵は日本独自に発展してきた技術ですが、螺鈿細工という天然の貝殻の真珠層を薄く削って作る技術と併用して、様々な文様が表現されて今に至ります。

さて、ここから皆さんの業界に関する本題です。先述した大航海時代宣教師の活動により南蛮漆器といわれ海を越えて交易が行われておりました。それがやがてウイーンのマリア・テレジアを通して娘のマリー・アントワネットのコレクションにつながります。そのご縁で蒔絵文化の未来への継承ということで外務省



の日本ブランド発信事業として海外(イタリヤ、スペイン、



ポルトガル)でデモンストラーションを行い、講演をしてきました。現地で取材を受ける中で関心の高さを伺えたり、今後の交流、ひいては事業としての展開も考えられると感じております。技術の継承が途切れることなく残っていることは海外においてはありません。

先般、京都迎賓館の首脳会談等で使用される「水明の間」の飾り台『悠久のささやき』を制作しました。館内見学ができますので是非ご覧ください。蒔絵調度品が国寶をもてなすのです。私たちの伝統的なものづくりが日本を代表する文化として発信されています。

私たちが携わる宗教用具は漆だけに限らず、伝統工芸技術を駆使したものづくり文化であると思います。歴史的な文化を守り育てることが大事であり、その付加価値を理解していただくことも不可欠と考えます。宗教用具の素晴らしさを、是非皆さんから多くの



人へ伝えてください。

今日は漆芸の技法を見ていただくために、見本をお持ちしました。下絵の柄「置目」があり、それぞれの技法「平消し」「江戸高」「上絵研ぎ出し」「つけ描き仕用」「平磨き」「漆上げ磨き」の6種類の絵皿を手にとって、違いを見比べてください。

また、質問がありましたらどうぞ。

山本 今、海外で蒔絵の評価は宗教用具としてか、日用品としてか、どうでしょうか。下出 いずれにしても緻密な工芸として評価が高いと思います。しかし購入して使ってもらうとなると簡単にはいきません。経験したことですが、例えばタンスは日本では畳の上に直接置くものとして作られています。それでは向こうの人は使わない。ところが、そのタンスを台脚に乗せたとたん台脚ごと売れました。

京都で日本の伝統工芸を発信されている Pieces of Japan の小山ティナさんは、海外で使ってもらうには、海外の生活文化を知って、それに合う商品を作らないといけないと言います。生活様式の違いや文化を知って開発することが重要なポイントと考えます。

総括

業界の「よき祖先」になるには

変容する市場へのヒント

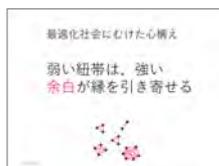
㈱スマイルワーズ 代表取締役
大阪芸術大学客員教授

ひきた よしあき氏

今研修では『長期視点』という言葉が浮かびました。過去には「泥船からの脱出」「コロナ禍に耐える」「宗教離れを止める」等のキーワードがありました。今回は「世の中が大きく変わろうとしている」、社会全体が「じっくり未来を見つめよう」という時期に来ているようにも思えました。

松本紹圭氏の講義では「最適化社会」という言葉がありました。溢れる情報にただ踊らされる社会から、「正しいもの、必要なもの、最適化されていく社会」へと変化が起きている。それは、1日目のワークショップにもよく表れていました。「新しい分野への進出」にIT化に進むという意見は一つもなく、自分たちが培ってきた領域の上に成長できるものを作っていくという意見が見られました。その「コアビジネス（中心になる事業）」に関しては前向きな発言が多く、時代や顧客のニーズに合わせてながら大事にしていくことを考えています。

お寺の檀家制度から企業檀家、仏道から企業研修や産業僧と可能性を広げる松本氏のお話のように、普段から自分が経験していることの上に新しいことがあつて、次の時代にどう最適化していくかということだと思います。



そして、皆さんから不要なものとして挙がったのが「酒の付き合い」「休日出勤」「訪問販売」など、働き方改革を望む意見が多く、働き方への最適化が求められています。この最適化に向けて、4つの項目にまとめました。

【提言1】小さくても確かな幸せを求め、自分を見つめる言葉を求める世相に添えていくために、「仏壇の前で手を合わせる」「お墓参りに行く」「お葬式をする」「掃除をする」「行事を行う」等、今までの使い古した言葉ではなく、今の人に伝わるように描き直していく。松本氏がダボス会議で「仏壇参り」を経験してもらったために、「死者を媒介にした死の瞑想的日々のマインドフルネスの実践」と哲学的に再定義して最適化を試みたように、長期戦略に向けて、古い概念を最適化する。

【提言2】最適化に向けた心構え。ネットワーク理論の「弱い紐帯ほうが強い」のように、この業界は常識に縛られがらむがらめになっているが、無用なものを捨てることで、そこへできた余白が新たな縁を引き寄せる。整理整頓し、断捨離し、未来の世代により多くの選択肢を残していくことが長期化戦略となる。

【提言3】最適化社会に向けた試み。何か新しいことをする時、破壊したり反抗するのではなく、積極的に読み間違え「誤読」をする。西本願寺のお坊さんが東本願寺で掃除することは、クレームが出るほど悪いことではなかった。掃除という行為は宗派を超えられる。あえて読み違うことで、ものの本質が見えて、違うつながりができる。また、私の仏壇には親鸞とスヌーピーが飾られ、ある医師は薬師如来を置きたいなどと、自分にカスタマイズされた仏壇が求められており、宗教の枠に在る限り変わっていくのは難しいが、仏壇をあえて誤読する。宗教用具の考え方を変えてみる。

【提言4】最適化の未来。松本氏はマインドフルネスの流れを利用し「先祖供養の輸出」をすでに試みたが、親鸞の言葉を英語化(輸出)して出版し、それを逆輸入すれば宗派の枠を超えられるのではないかと挑戦する。そして、下出祐太郎氏の講義では、蒔絵文化などの世界に類を見ない日本の「伝統に特化した仕事」を海外に輸出するには、相手がどんなものを欲しがっているのか、マーケティングしなければ売れないと話があった。工芸品だけでなく、先祖を大切にしている団体なのかもしれない。

真面目に人生を考える兆候が見え始めた今、「宗教用具が人生の役に立つもの」として語り直しの言葉を作っていくことが大事ではないでしょうか。手を合わせる仏壇の意味を再定義するところに最適化の力があります。あえて誤読することで、そこに新しい商機が生まれると思います。そして、不要なものを捨てる。しがらみを捨て、異業種とのネットワークを作り、余白を広くして縁を繋いでください。

現代まで継承され続ける日本の伝統文化を最適化して世界へ輸出できないかと長期視点で考えることで、新しい道が見えてくるのではないのでしょうか。

この2日間、皆さんと直に会って、語り合うことがどれほど素晴らしいか、実感した研修となりました。機会があれば、皆さんの地域でもお会いしたいと思います。

NL部 秋の研修会 2023 in 京都 11月21日(火)～22日(水)
知恩院・清水寺の参拝と(株)若林佛具製作所・若林社長のご講演



青空のもと、知恩院にて研修中

青く澄み渡った秋空のもと、赤・黄・緑の葉に彩られた知恩院から、NL部研修がスタートしました。本堂を始めとした建造物・荘厳仏具・境内の景観を拝見して、信仰と文化の歴史を感じ入ると同時に、我々が日頃から携わる宗教用具の仕事とは一体何なのか、自らに問い直し、考えるきっかけができたと思います。

その後、観光客で溢れる参道を歩いて清水寺へ。出迎えて下さった大西英玄先生からは、仏教に対して馴染のない層へ歩み寄り、仏教に親しむきっかけづくりを行う活動等についてのご講話を伺いました。我々宗教用具業界も、改めて生活者への歩み寄りを進める必要があると感じました。

翌日は仏具業界で指折りの老舗・若林佛具製作所の若林智幸社長から、世の中の変化に対応する為に行っている様々な自社改革エピソードを伺いました。険しき道だとしても進んでいく大切さが伝わり、身が引き締まるとともに、自分自身ももっと挑戦をしていこうと思えるご講演でした。研鑽とリフレッシュを兼ねた充実した2日間を過ごすことができました。



濃紺の夜空と山際の日没を背景にライトアップされた清水寺で集合写真



NL部は新入部員を募集中!

共に学び、共に進んで参りましょう!

お問い合わせ先：全宗協 事務局
 TEL: 03-6206-0413

惜しみなく、自社の実践とその現状についてお話くださった若林社長

結果報告

令和5年度 仏事コーディネーター試験

- 開催日：令和5年11月15日(水)
- 会場：(東京)台東区民会館
 (大阪)新梅田研修センター
- 受験者数：(東京)38名 (大阪)31名
- 合格者数：66名



仏壇販売の現場で役立つ・業界標準テキスト

全宗協組員価格 13,200円(税込)

最新版 好評発売中!!

『仏壇仏事ガイド ver6.0』

一般価格 16,500円(税込)ともに入金確認後送料着払いで発送
 振込口座：みずほ銀行 銀座通支店(普通) 2088398
 口座名：全日本宗教用具協同組合

事務局からのお知らせ

1. 当面のスケジュール

- 令和6年2月26日(月)
 令和5年度 第2回理事・役員会(エッサム神田)
- 令和6年4月23日(火)
 令和5年度 第3回理事・役員会(エッサム神田)
- 令和6年度 総会5月22日(水)(ホテルオークラ京都)

2. 組員数 288名(令和5年12月20日現在)

3. 組員関係者の訃報(令和5年5月7日～令和5年12月20日)

【京滋地区】

- (株)安藤 代表取締役 安藤健作様 ご尊父 安藤宇助様
 (9月1日 享年81歳)
- (株)若林佛具製作所 代表取締役 若林 智幸様 ご祖父
 取締役相談役 若林卯兵衛様 (10月8日 享年81歳)